

ユニット階段・鉄骨製品  
製品の加工製造会社「キタムラ」（埼玉県秩父市、社長・北村浩一氏）は、市場の変化を捉えた新たな製品や技術の開発を成長の原動力に業容を拡大している。近年では「グロ―バルな視点で」「ローカルからの情報発信」に取り組み中、独自ブランドの展開を通じて「鉄と住環境の融合」を追求している。

キタムラのオリジナル製品は、1961年（昭36）の創業時から今日にかけての歩みにその真髓が表れる。工業用チェーンの製造を起点に板金加工・建設機材、集合住宅の廊下・階段鉄骨部材の供給、機械式立体駐車場のパレットなど、60年を超えて需要分野の対応領域を広げ、多彩な製造・加工・組立のノウハウを確立してきた。「自分たちのブランドをもっている方が営業しやすいのでは」（北村社長）との着想に基づくブランド戦略との両輪で、ラインアップに磨きをかけてきた。

# 現場を歩く

## ユニット階段・鉄骨製品加工製造のキタムラ



軽量鉄骨造の平屋建て「ハナレ」。市場投入が本格化する

るゆえんだ。足元では、平屋建て「HANARE（ハナレ）」の市場投入が本格化している。フランチャイズの展開も視野に、標準仕様のスタンダードタイプ（W3640×D1820）は4トトラック1台での搬入や設置に対応しており、高い作業性や経済性の実現に寄与。コロナ禍によるテレワークの増加や多様化する趣味・専門性、プライベートな時間や空間を重視する時代背景にヒントを得て、限られたスペースにリーズナブルで手軽に導入できる「小さな部屋」のコンセプトを描き上げる。

### 耐力壁、埼玉大と共同研究

軽量鉄骨を部材に使用するシステム建築「骨太ハウス」も、独自ブランドの1翼を担う。これまで培ってきた経験と技術を駆使し、耐力壁工法を考案。耐震性に優れた「KTW AL455」を採用し、軽量でスリムなデザインに仕上げている。一般的な耐



多彩な製造・加工・組立のノウハウを確立

### 軽量鉄骨で潜在需要捕捉

中でも軽量鉄骨はそれらをくまなく生かす、大きな事業の柱の一つに挙がる。

関東をはじめ都市部では狭小地が多く、運搬や建て方で優位性を発揮する。その潜在需要の大きさが、細やかに市場ニーズを捕捉する製品群の拡充に挑戦し続け

## 市場の変化捉え、製品群拡充

## 独自ブランド展開、「鉄と住環境の融合」追求

力壁よりも堅固な設計で、室内に柱の型が見えない上、重量が軽く重機を使わなくても建てられるのが特徴だ。一般の戸建て住宅をはじめ、共同住宅やシェアハウス、高齢者施設などで広く採用実績を上げている。

耐力壁をめぐることは、一昨年より埼玉大学と共同研究を実施している。従来よりも軽量で高強度な仕様を指し、載荷試験や引張試験などに着手。科学的見地に立った詳細な解析結果に基づき、近く日本建築センターの評定取得に向けた手続きに乗り出す。

さらに屋外用鉄骨階段廊下ユニット「アパート」は「ユニット式で施工性が高く、コストパフォーマンスが良好」（同社）なのが特徴。豊富なバリエーションで防火地域や準防火地域で導入可能な仕様も取りそろえている。室内では、鉄骨階段「アパートレジデンス」があり、鋼材が醸す重厚感とモダンな空間を生み出すデザイン性とともに、アパートと同様、工期短縮の実現で広く支持を得ている。

### HPコンテンツ、閲覧者との架け橋

構内には、来訪者が実際の施工をイメージしやすいよう、社員寮に「アパート」、事務所内に「アパートレジデンス」のモックアップ（構造見本）を用意。アパートは実際に社員が住む建物に据え付けであり、身近に臨場感を体験できるレイアウトになっている。

複数のオリジナル製品がエッセイ豊かなホームページ（HP）のコンテンツが施主や工事関係者との接点を醸成する中、オンライン閲覧者との架け橋となり、新しい鉄の可能性を探るための奥行きを深める。バラ

その一環で軽量鉄骨では、配置を洗い出し、無償で見積もりから構造提案までのサービスを提供する。希望者は計画中の平面図と立面図を送ると、部材の選定や「ハナレ」では、バーチャルなウェブ展示場を開設している。「楽しんで見てほしい」との思いから、拠点を構える秩父を彷彿とさせる、山並みや渓谷のデザインとともに、ハナレで手掛ける構造物のジャンルを紹介。構内の一角でも金属や窯業のサイディング（外壁材）、扉やサッシ、窓を取り付けた試作品を見学できるとともに、敷地の一部を活用した専用のスペースの整備も視野に入る。



敷地内の社員寮に取り付けている屋外用鉄骨階段廊下ユニット「アパート」(上)、事務所に展示している室内鉄骨階段「アパートレジデンス」

## 新たな鉄の可能性模索



HPはこちら

近年では、オーダーメイドでアウトドアギア（装備品）の製作にも取り組む。「とにかく鉄に関するところはいろいろトライしている。北村社長の言葉にも力がこもる。「作る技術はある。あとはいかにユーザーの声を傾けていくのか」。最も強いものが生き残るのではない。最も変化に敏感なものが生き残る。チャールズ・ダーウィンが「種の起源」に記した言葉さながらに、「常に『チャレンジャー』であり続けること」（同社）を念頭に、企業価値の創造にか

(中野 裕介)